

日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会誌

# Izumi

2012年 4月





# 総会/懇親会のお知らせ

## 懇親会の詳細

- 開催日時：2012年 6月 2日(土)  
開宴17:00～(受付16:30～)
- 開催場所：ハイアットリージェンシー 東京(新宿)
- 参加費：7,000円(学生3,000円)

当日参加予定の退職・転出された先生方は下記のWebページに逐次掲載する予定です。ぜひ、ご覧下さい。

<http://www.ntdosokai.org/html/2012party.html>



日頃は当同窓会に対して数々のご高配ご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。  
本年も左記日程にて、同窓会総会及び懇親会を実施させていただきます。  
皆様ご多用のおり誠に恐縮ではございますが、ご出席を賜りますようご案内申し上げます。

## 維持会費納付のお願い

同窓会は卒業生の皆様からの維持会費により運営されております。  
ぜひともご理解いただきご支援の程、よろしく申し上げます。

(平成18年～22年度卒の方は卒業時に5年分をお預りしているため不要です)

※維持会費は年度ごとをお願いしておりますが、あくまでも会員各位のご好意をいただくものです。従って、納入されなくても、過去に遡って請求される等はありませんので、誤解のないようお願い申し上げます。

**【お申込み方法】** 以下のお振込先宛にお願い致します。

- 座：ゆうちょ銀行(郵便局)      ●  一口
- 座名義：日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会      3,000円(維持年会費)
- 口座番号：00150-4-613083

### ※個人情報の取り扱いに関しまして

当会では、取り扱う個人情報の重要性に鑑み、これを適切に保護するため、個人情報の取得・利用・管理についてのプライバシーポリシーを設け、適切な運用方法を定めております。

平成二十四年度会報 (CONTENTS)

○総会／懇親会のお知らせ

◆同窓会会長インタビュー……………阿部 栄介(昭和五十五年卒業)

◆新校長メッセージ……………村松 記久明(昭和四十三年卒業)

◆FOCUS・卒業生インタビュー……………松井 龍哉(昭和六十二年卒業)

○同窓会エンブレム募集

◆前校長メッセージ……………川瀧 幸二

◆SPOT・放送部座談会

○学園祭のお知らせ

○同窓生のお店探訪 〈池尻大橋「八代井亭」〉

○編集後記



※当会報は学生を含む若手編集スタッフ(OB・OG)を中心として制作しております。  
インタビューも編集スタッフが直接取材をしております。

IZUMIでは皆様に、より楽しんでいただくため今号の感想や次号以降の取り上げて欲しい内容などのご意見を募集しております。お気軽に下記住所、またはメールアドレスまでお送りください。沢山のご意見、ご感想お待ちしております。

- 住所：〒168-0063 東京都杉並区和泉2-26-12  
日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会事務局
- メールアドレス：tsurugaoka@ntdosokai.org



すね。それから、大きな懸案ですがスタッフの拡充です。やはり機動力のあるスタッフが足りていない状況です。そのため、どのような活動をするにしてもまず、スタッフを増やすことが必要なのです。

—— スタッフを増やすのにどのような活動をされているのですか。それと、いま最も必要な人材はどのような方ですか。

基本はOB会とか色々なところに顔を出して、同窓会に興味を持ってくれた方に入ってもらいます。

必要な人材というと、社会人はなかなか自由な時間がとれないから、40代半ば位を過ぎて時間がとれる方や、あとは若い学生達です。できるだけ負担のかからないような運営の仕方に変えていこうと考えています。

—— 今年の卒業式予行では若い役員から卒業生に同窓会について話をされたのですね。

そうですね。若い人達に興味を持ってもらうには、若い人に声を掛けてもらうことが重要です。鶴ヶ丘祭もPRポイントなので、若い人達にはほとんど意見を出してもらって、同窓会ブースをもっと盛り上げていきたいと考えています。



この3年間で基礎は作れたから、これからはある程度、前に進んでいけると思います。また、来期からの新事業計画案を検討中です。次の3年間は、改革を強力に進めていく段階だと考えています。リクルートセミナーの開催、役員会ははじめ各種会議の開催・運用方法の改革、同窓会事業（組織）の設立など、従来にない方向性と具体策の立案と実施を考えています。4月の役員会で新事業計画案を発表する予定です。

—— これからが楽しみですですね。では、最後に阿部会長がご自分の時間を削ってまで同窓会、鶴ヶ丘になぜそこまでできるのかという理由を教えてください。

もちろん鶴ヶ丘が好きだからです。とにかく鶴ヶ丘が好きなんです。学生生活が楽しかったし、良い先生に恵まれていました。「鶴ヶ丘卒っていいだろ」って周りに自慢できる学校だと思っています。そうでないと、やっていないと思いますし。

—— なるほど。これからも頑張ってください。本日はありがとうございました。

ありがとうございます。



会長インタビュー

昭和55年  
卒業

同窓会会長

# 阿部 栄介

(あべ・えいすけ)

今年の6月で任期を終えられる阿部会長に、3年間の任期を振り返ってのこれからの展望を、任期満了間近の2012年2月に語っていただきました。

——同窓会の会長として、ご自身の任期を振り返ってみていかがでしょうか。

そうですね。この3年間は充実した同窓会活動の基礎作りとして、周囲の方に認めてもらえるように活動内容をより明確にしてみました。実際に動ける人が非常に少なく、厳しい状況でしたが、周りの方にも助けられながら透明性のある同窓会が作れたかなと思います。

——なるほど。では、これから

同窓会はどのような方針で活動していくのですか。

今期は役員改選期です。同窓会自体の今後の在り方として、母校の発展及び会員相互の親睦を深めるのは当然の事ですが、卒業生の皆さんに同窓会をもっと認知してもらえようという活動していきたいと考えております。

この3年間で感じたのは、クラブ活動のOB会などと協力して、学年という縦の繋がりだけではなく横の繋がりも持たなければならぬということですね。そして何より重要なことは、とにかく若い人達にもっと魅力を感じてもらえる同窓会にしたいということです。

——今の同窓会は若い人達に十分に知られていないですからね。何かそのための具体案などはあるのですか。

るのですか。

時間は少しかかるかもしれませんが、同窓生を対象とした就職支援の活動や、学校にお願いして生徒を対象とした講話会なども開催したいのでそのための計画も進行中です。

ただ、同窓会主催のイベントって急に言われても若い人達にはなかなか近寄りにくかったりすると思います。開催するまでの間にどのくらい同窓会に興味を持ってもらえるかがポイントになってきます。

——興味を持ってもらうために何か考えていることはあるのですか。

たとえば講話会にしても、生徒たちが親近感を持てるよう、現役の大学生とか若い世代の社会人に経験談などを話してもらいたいので

Top Interview



らせていると思います。絶対に恥ずかしい事は出来ません。卒業生の方々に卒業生である私だからこそ、ここまで鶴ヶ丘を素晴らしい高校に出来たんだと思ってもらえるように導いていきます。」と穏

やかながらも強い意志を感じさせる口調で答えた。

最後に、どのような校長を目指すのかという質問に「残念ながら私はもう生徒の前で勉強を教える

立場にありません。しかし、私が大学に残らなかった理由は、「教授ではなく「教諭」でありたいからなのです。教授とは学生に教えを授けます。そうではなく、生徒に諭し教えるのです。鶴ヶ丘の良さ、

高校生活が長い人生の中で如何に大きく素晴らしい時間であるのかといったことを、生徒に伝えられればと考えています。」と語ってくれた。





新校長メッセージ



# 村松 記久明

(むらまつ・きくあき)

今年度より鶴ヶ丘の校長に村松記久明氏が就任された。

村松校長は初めての鶴ヶ丘出身(昭和43年卒業)の校長となる。校長としてどのような学校作りをして、卒業生として生徒に何を伝えたいのかお話を伺った。

「如何に高校生活が人生の中で楽しいか。それを生徒に伝えたい。」校長として生徒に何を伝えたいかという問いに、とても穏やかに村松校長はこう答えた。村松校長は高校時代、家にいるより一分でも長く学校に居たかったそうだが、なぜ、そこまで鶴ヶ丘が好きなのか。「理由は沢山ありますが、その一つに皆勤賞の制度があります。

私も高校時代皆勤賞でした。その時、私だけでなく私の両親も表彰されました。確かに無遅刻無欠席の生徒は偉いです。しかし、生徒を毎日元気に送り出す両親も素晴らしい、称えられるべきだという所から来ているのですが、今でもこれが残っているのです。このことはとても嬉しく、また誇りに思います。」村松校長は自身の経験を踏まえて、生徒の人生にとって鶴ヶ丘がとても大切な場所になるようにしたいと語った。

「行事を大切にしたい。鶴ヶ丘祭や体育祭は普段の学校生活では出来ない体験が出来るからです。」クラスメイトと力を合わせて何かを達成するのはそれだけで価値がある事だと語った。

イベントだけではない。もちろん

ん学校長として、生徒の学力向上は重要な使命である。

「川瀧先生は学校長として鶴ヶ丘の学力向上に成功しました。それを踏襲し、更に飛躍させられればと考えています。」と、しながらも「ただ、学力向上以外にも社会的な経験、例えば様々な職種の方の話を聞くだとか、そういった機会も積極的に生徒に与えていきたいですね。鶴ヶ丘の卒業生には様々な業種の方がいらっしゃるから。そういった意味で同窓会からのバックアップを頂ければと思っています。」と付け加えた。

また、初めての鶴ヶ丘出身の校長ということに対しては「私は鶴ヶ丘の長い歴史の中で初めて鶴ヶ丘卒業生として校長になります。そのため、沢山の卒業生が目を光

Message



事を思い出してね。日芸に入ったらデザインの勉強が出来るんじゃないかと思って行こうと決めたんだ。どうすれば入れるか考えた結果、付属の高校に入るのが良いんじゃないかなという考えに至って、更にもこの付属校が一番日芸に行ってるかを調べたら鶴ヶ丘の美術科だね。しかも美術科の生徒はほとんど日芸に行ってるっていう事がわかったから、鶴ヶ丘高校美術科一本に絞って中学時代は勉強してたよ。

——中学校の頃からですか。とても意識が高かったんですね。

その入学試験のときの面接で「MOMAで出展されるような人になる」って断言したしね。先生達は何考えてんだって思ったろうね。でも実際、卒業して17年位して僕がデザインしたロボットがMOMAに行ったからね。しかも入学してクラスメイトは東京中から自分が一番だと思ってる人たちばかり鶴ヶ丘には集まってきたよ。凄くレベルが高かったよ。

そういう意味でも鶴ヶ丘は僕の人生に於いて重要なスペースで、僕が描いてた人生のヴィジョンで重要なステップだった。残念なのは僕の下で学年で無くなっちゃっ

たことだよ、芸術科が。

これからは「課題を作る」  
人材を作らないといけない。

実は僕は今、日芸で講師やってるんだけど、その集まりで「日大全付属にデザイン科を入れるべきだ。それが今の日本を変えるFirst Stepだ」って話してきた(笑)

——デザインが日本を変えると。

国を動かしていく為にはモノを作って、外国に出していくべきなんだよ。知的財産がこの先の日本にとって凄く重要だからね。

一般教養ばかり勉強させる仕組みはやめさせて、高校生位からデザインとかクリエイティブな事を学ばせて社会に出した方が、変な大人達が作るモノより良いモノを多く生み出せると僕は考えてるんだ。その為には付属校が多い日大が率先して小学校、中学校からデザインの授業を入れさせて、高校ではもっと専門的なことを学ばせられるシステムを作るべきなんだ。

そういう計画をアカデミックにやるっていうのは日大っていう組織を持つネットワークが一番有効的なんだ。



# 鶴ヶ丘は僕の人生に於いて重要なスパイスで、僕が描いてた人生のヴィジョンで重要なステップだった。



“ロボットデザイナー”

昭和62年美術科を卒業後、日本大学芸術学部美術学科に進学。平成13年にニューヨーク近代美術館に特別企画展「Workspheres」を出展。同年、フラワーロボティクス社を設立。現在に至る。主な作品としてフラワーガールロボット「Posy」、マネキン型ロボット「Palette」がある。また航空会社「スターフライヤー」のトータルデザインを手掛けた。

こう語るのは松井龍哉氏（1987年卒業）。今は廃止されてしまった鶴ヶ丘美術科卒業で世界的に有名な近代芸術が集まるニューヨーク近代美術館MOMAに自身の作品を出展するなど世界でも活躍しているロボットデザイナーである。今回は世界をまたに掛ける松井氏にデザインする事、鶴ヶ丘時代の思い出についてお話を伺った。

——本日はご多忙の中お時間頂きまして誠にありがとうございます。さて本日のインタビュですがデザインについて、そし

て鶴ヶ丘についてお話を伺いたいと思います。よろしくお願ひします。

よろしくお願ひします。

——早速ですが、松井さんがデザイナーになったきっかけは何だったのですか。

子どもの頃から絵を描いたりするのが好きで、モノを作り出すというのを良いなと思ってね。

家の近くに東映の撮影所があったて、日芸（日本大学芸術学部）に通っていた近所のお姉さんが仮面ライダーの撮影のアルバイトをしてたんだよね。その時に、大人なのに仮面ライダーの仕事してるんだ、凄いなって子どもながらに思

ったんだ。それから当時はデイズニアアニメが好きでね。特に作品を作っている人に憧れてた。だから割と子どもの頃から漠然と絵を描いたりする仕事したいなと思ってたね。

——なるほど。ではもっと明確に思われたのはいつ頃ですか。

中学の頃だったね。テレビでデザインについての番組があって、初めて「デザイナー」という概念を知ったんだ。その時にイスとかポスターを考えて作ってる人がいるっていうのがわかって、凄く面白いと思った。で、デザイナーになるにはどうすれば良いか考えたときに、近所のお姉さんが日芸だった

FOCUS

フラワー・ロボティクス株式会社  
代表取締役

卒業生インタビュー

昭和3月  
卒業

# 松井 龍哉さん

(まつい・たつや)

崩れないんだよね。で、それを毎日1匹描かないといけなかったわけ。

——え？毎日ですか？

毎日毎日。だから月曜日に7匹提出するわけ。だけど毎日描けないから日曜日徹夜して描くとかしてたこともあったけどね(笑)。

——だけどそういつたことを本当に毎日やってたから、ある日突然オートバイを描かされた時に(構造体)として捉える事が出来て、描けるようになってるんだよね。で、課題だけじゃなくて毎朝学校に行くくとデッサン室で絵をひたすら描いて、夜遅くまで皆残ってやってたよ。

——なるほど。ではその美術科は何クラスあったんですか？

1クラスで人数は50人位。

——50人も居たんんですか？

そう。しかも3年間クラス替えも無し。だから入学した日に周りを見回した時、これが青春を共に味わう人たちなんだって思ったよ。

ほとんどみんな日芸に行くからクラスメイトとはずっと一緒に、今も定期的に飲みに行ったりするんだ。

——今でも交流があるのは良いですね。

Macは一緒に

布団で寝ても良い

——たくさん見られてきた中で、松井さんがプロのデザイナーになる前に感銘を受けた作品はありますか。

目白にある東京カテドラルマリア大聖堂だね。担任の先生の家に行った時、近くにあるから是非見てこいって言われて。素晴らしいデザインだったな。鳥肌が立った。

——後は、1984年に出たAppleの初代Mac(マッキントッシュ128k)かな。あれはデザインの勝利だね。姿形だけじゃなくて、考え方とかすべてに於いてデザインされてて、マウスにも驚いたしね。Macはさ、一緒に布団で寝ても良いと思えるくらい可愛かったね(笑)それくらい大事にしたいものってあまりないじゃない？

——確かにそうですね。今、デザイナーとして考えた時に感動するのはやはりApple製品ですか？

今でもApple製品だね。や

っぱり、こういう風に良いものに触れないといけないから。姿形だけの話じゃないからね、デザインは。構造体なんだ。構造体が考えられていて、使い易いかって事と、使ってる人がハッピーかってことが重要なんだ。

——それはご自身がデザイン設計をされる時にいつも考えている事ですか？

そう。後は、自分たちでないと作れないものってことだね。汎用的なものは面白くないしね。そういったことを考えて、仕事をしているよ。そういつたプロ意識みたいなことも鶴ヶ丘で学んだなあ。——逆に言えば、鶴ヶ丘のときのノリみたいなものも変わってないけどね。それに鶴ヶ丘は交通の便が良いよね。渋谷、新宿もすぐでしょ？で、デザインの展覧会が渋谷で多かったから色んなのを見て触れられたね。高校生の頃から若い人が集まる所で感性を磨けたのも良かった。

自分自身で創造した事を  
自分自身で責任とついでいく  
生き方は良い

——現在のデザイナーという立

場から考えて、鶴ヶ丘の校舎をデザインするとしたらどのような感じですか？

学校のデザインで一番重要なのは、廊下なんだ。ヨーロッパ行つてわかったんだけど、廊下が目一杯広いんだよね。血液と一緒に流れている事が一番大事なんだよ。

——コミュニケーションをする場で、色んな人が歩いてたり、溜まったりっていうのが学校にとって大事。今は情報化社会だから籠りがちになっちゃうじゃない？ネット内でのコミュニケーションはそれで面白いけど、リアリティの世界でもっと大事でさ。でも教室では限界があるから、広々とした空間に居られるような設計にするね。

——ということは日本のほとんどの学校はだめですね。

今あるほとんどの学校は昔の設計だからね。当時はとにかく学生が多かったから、廊下とかは後回しにされたんだね。だけど今は生徒も少なくなってきたから、今から作るなら生徒が学校でのびのびと出来て、でも競争意識みたいなものは持つてる感じだな。だから学校もそういう事が出来る構造体を作らないとね。

——大学から学んだのでは遅いと。

もちろん。今の日本は世界から追いかけられるから新しい何かを発想していかないといけない世代だからね。〈課題をやる〉んじゃないくて、もつと〈課題を作る〉人材を作らないといけないんだよね。そこには先ず創造力有りきだから。若い時から創造的で面白い事がやれる学校造りをすれば人材は集まってくるからさ、そういう意味で鶴ヶ丘はもつとクリエイティブな人材を入れた方がよいね。甲子園も良いけどさ、やつぱりMOMAの方が世界的だからな。甲子園なんて世界では誰も知らないからね。

——(笑)。素人目から見ると〈絵が描ける〉っていうのは才能ありきで捉えてしまうんですが、やはり小中学校から絵をアカデミックに学んでいくと全然違うんですか。

違うなんてもんじゃないよ(笑) そういったことは凄く将来にも役立つんだ。今でも僕は高校で学んだ通りにやってる事があって。課題で、ある焼酎のボトルデザインについて〈どうデザインされるか〉とか〈どういう流通経路で世の中にまわるのか〉といったことをリ

サーチするっていうものがあつてさ。調べる為にそれをデザインしているオフィスに居させてもらって教えてもらうこともあった。

その時に対象が誰で、素材は何にするか、形はどうするかっていう一連のデザインの流れを学んだよ。その時にはデザインっていうのはただデッサンするだけじゃなく、世の中の販売システムを含めて作っていくものなんだっていうのを勉強してそれが今でも仕事の基盤になつてる。

——それを高校の時に学んだんですね。かなり興味深い課題ばかりだったんですね。

もちろんそういったものばかりじゃない。毎日やる課題があつて、それがあ意味名物だったのがあるんだ。

——名物ですか

そう。毎日ニボシのデッサンを描くって言う課題があつたんだ。

——ニボシですか？

あの小さい魚の。ニボシって小さいじゃない？それを紙に引き延ばして描くって課題だった。小さいものを大きく引き延ばして描くって凄く難しいのさ。しかもた



だ表面的にニボシを捉えて描く訳じゃなくて、どういう風に背骨が構成されて肋骨とか皮、神経が付いているかってことを立体的に

捉えて描くんだ。見たまんま描くと絶対崩れるんだけど、骨の仕組みを気をつけて捉えれば、引き延ばして大きく描いてもバランスが

あかし  
証を、  
ください。

## 同窓会エンブレム募集

募集内容：エンブレムデザイン案（図（マーク）のみの募集です）  
募集締切：2013年3月31日  
応募資格：本校卒業生。プロ・アマ・グループは問いません。  
最優秀賞：賞状  
副賞：金一封（25万円）  
主催：日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会  
応募・問合せ先：日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会 エンブレム選定係  
Mail：entry@ntdosokai.org

※最優秀賞の発表は2013年同窓会総会にて行います。  
※その他、応募のための詳細は同窓会ホームページに記載しております。  
合わせてご確認ください。（右記QRコードからも読み取れます）  
同窓会ホームページ/<http://ntdosokai.org/>



——ストックしては駄目だと。

ダメダメ。フローしないと。流れている事自体に興味があつてさ。

で、所々イベントが出来る様にすればさ、面白いでしょ。面白くないなら面白くなる様にライフスタイルとかもデザインすれば良いだけなんだ。たった一回の人生なんだから、自分自身でデザインしなかつたら面白くも何ともないじゃない？だから面白いか否かつて個人のクリエイティブティに掛かつてるんだよね。自分で創造したことを自分で責任取っていく生き方は凄く良いね。

——自身をデザイン、確かに凄くカッコいいですね。

少し話は変わりますが、松井さん自身が今までクリエイトしてきた作品の中で、特に思い入れのある作品はありますか。

僕もね、まだ年寄りじゃないからあんまり振り返ってないんだよね。だから、"Next One"だね。

要するに今取り組んでいる事が一番なんだよ。だからそれは、死ぬ間際になったら考えるよ(笑)色んなロボットをこれからデザインしたいし、まだまだ満足してないから。

——そうですね。大変失礼しました。

ロボットだけではなく、航空会社スターフライヤーなどのトータルデザインも手がけてらっしゃいますよね。一度乗った事があるのですがそれが非常に快適で洗練されていました。

そう。いまでこそ成果が出たから良いけど、当時は説得するのが難しくてね。洗練させる事に意味があるのかとかさ。だから無いものを作る上では色んな人に賛同してもらわないとデザインは出来なからね。その為にはビジョンがしっかりしてないと賛同は得られないよね。

自分の感性だけではなく社会のニーズもキャッチしながら自分のデザインするモノを作らないといけないからね。展覧会とかで発表するのも僕たちの世界では凄く重要な事なんだよ。

来年(取材が2011年に行われたため、2012年を指す)はいくつか都内とか海外で展覧会があるからね。

——それは楽しみです。

——そういつた展覧会や仕事で作品を出す上で松井さんがデザイナーとして気をつけている事は

ありますか？

僕たちデザイナーは社会が何を求めているのかについてアンテナを張り巡らせないといけないから、デザイナーとしては何かに傾倒しないように常にニューラルにして判断する様に心がけているかな。

だから生活習慣も規則正しくしたりして、(普通の感覚)を維持してるね。そうするとデザインのやる事が見えてくるんだ。

——「普通であれ」ということですね。

そうですね。それに華美にならずに、あつたかのようにする事だね。このさじ加減が難しいんだけどさ。

でもそうだね。前の時代より必ず進化してるけど、その進化が凄く自然に受け入れられるものってこと。例えば掃除機、いつのまにか紙バックを使用していないモデルが出てきたでしょ。後はハイブリットカーとかね。いつのまにか浸透してるでしょ。これが良いデザインなんだ。

——難しいですね。

——そうですね。本当にさじ加減が難しいんだよね。というか、大先輩

含め今の現役生も一瞬は鶴ヶ丘に居たわけでしょう。そういった人達が繋がるきっかけで大事じゃない？

でも誰かがやらないと繋がらないんだよね。だから同窓会っていう組織がある事自体がそもそも凄く良い事だと思う。人って意外と単純な事で繋がるからね。仕事で、日大出身っていう人も居るけど、鶴ヶ丘出身っていう人の方がググッと距離が近づくんね。

——最後になります。現在鶴ヶ丘の同窓会を盛り上げていこうとしているのですが、具体的にその為に必要な事は何だと思えますか

いかに前からあつたっていうのを感じさせられるようにすると凄く良いよ。新しい事なんだけどいざ参加してみると、ふっと前の時代に戻るような仕組みづくりをデザインしていくと幅広い世代が自然に入って来れるんじゃないかな。

——なるほど。参考にさせていただきます。本日はお忙しい中ありがとうございました。

——ありがとうございます。

を運ばせ吟味したという。値段よりも質を大事にしたのだ。そして、そのことを生徒に体感させたかったのだ。

学力向上についても7年間で力を注いできた内容の一つだ。専任の委員会を設け、在籍する生徒の学力向上を図った。

また、生徒募集数を下回ってでも入学してくる生徒の学力を重視した。しかし、そこに学校経営の難しさもあるという。都立高校の無償化が主な原因だ。私立高校は単純に学力向上をすれば良い訳ではない。生徒数が少なくなればそれだけ経営も難しくなる。

「施設や教室を綺麗にして過ごしやすい学校作りをするには入学してくる生徒を増やさなければならぬ。そのためには魅力的な学校にすることが大事。学力向上と学校経営の両輪を上手く動かさないといけない。」7年間で川瀧先生が大変苦労した点だという。

最後に、次期校長先生に期待する事は何かという質問に「次期校

長先生には先生方の意見を沢山聞いてもらい、本当に生徒の為になるような舵取りをして欲しい。」と答えた。

志の高い先生方が多いのは素晴らしい事だが、それ故に一丸にな

ることは難しいから、と自身の反省も含めて期待しているという。

川瀧先生はこれまでほとんど自分の為の時間が無かった。

退任以降何十年ぶりに自分の時間が出るそうだ。「ようやく自分の時間が取れる。そうなったから国内外問わず旅に行きたいね。」これからの時間は楽しみでもあり少し寂しいと最後に付け加えた。





前校長メッセージ



# 川瀧 幸二

(かわたき・こうじ)

7年間鶴ヶ丘で校長として常に学校を導いてきた川瀧先生が3月に退任された。

7年という長い任期の間、大きなことから小さなことまで鶴ヶ丘を変えていった川瀧先生にお話を伺った。

「とにかく、服装の乱れが気になった」

7年前、鶴ヶ丘に着任された時の印象を川瀧先生はこう語る。

「私立校は公立校とは違う。誰から見ても良い印象を持たれるように制服は常にキチッと着ることが大切だ。」鶴ヶ丘の制服は学ランからブレザーへ変わり、4年前に更に新しいデザインのブレザー

になった。制服は流行り廃りで変えるものではないとも語っていたが、洗練されたデザインにするこ  
とによって服装の乱れが改善される  
のでないかとの意見もあり、変更  
したのでそうだ。「変えた結果  
としてデザインも然ることながら  
乱れも無くなり好評を博して良  
かった。」

服装の乱れ、これが川瀧先生の  
第一印象であったがこうも思った  
そうだ。「鶴ヶ丘では挨拶を当  
り前に出来る生徒が多かった。」  
挨拶すらまともに出来ない社会人  
がいる中、鶴ヶ丘の生徒が自ら  
挨拶出来るのには驚いた反面、  
とても素晴らしいと感じたという。

また、近年鶴ヶ丘の校舎は補修

工事を行い、音楽室を始め様々な  
教室や施設が使いやすく綺麗にな  
った。その中でも川瀧先生が最優  
先に取り組んだのが化粧室だった。

「化粧室は建物の、しいては人の  
生活の要。化粧室の汚れは建物の  
汚れや生活の乱れの原因になる。  
絶対に綺麗でないといけない。」  
普段、物腰の柔らかい川瀧先生で  
あるが、語気を強めた。更に、「い

くら建物綺麗でも化粧室が汚い  
所には絶対にその建物自体に行  
こうとしない。」と続けた。

また、教室の机や椅子には質の  
良いモノを採用した。「新しいも  
のが綺麗なのは当たり前。しかし、  
安物であればすぐボロボロに汚  
くなる。汚いものは大切に使うと  
はしない。良いものならば大切に  
使う。」実際、業者には何度も足

Message

り上げた内容はどういったもので  
すか？

小島：最近だと視覚障害者の方た  
ちの映画ドキュメントで「アイ」  
というのを出しました。今は次の  
春大会で1年生が虐待された犬とか、  
保健所にいる犬についての作品を  
作っています。

田中：ドキュメントを作る上で難  
しいことは、基本的には自分たち  
で調べにいけます。今の1年生は  
保健所とかにも直接行って、保護  
している人に取材しています。

小島：実際に捨て犬のドキュメン  
ト映画を作った監督さんに直接イ  
ンタビューしに行ったりもしてい  
ます。

●そこで話を聞きながら撮影し  
ているということですか？

小島：そうです。

今井：それを8分にまとめて、大  
会に出すんです。

●なるほど。大会というのとはど  
のようなものがあるんですか？

田中：はい、まずNHK杯とい  
うのがあって、そこではテレビとラ  
ジオを2作品ずつ出しています。

他にやりたい人がアナウンス部  
門と朗読部門に出たり、部内で企  
画が上げれば、ドキュメントも出  
します。

今井：つまり必ずテレビドラマと  
ラジオドラマを2作品ずつ出すよ  
うにはしているんですよ。

●やはり審査は厳しいのですか？  
今井：そうですね。まず東京予選  
があって、アナウンスと朗読だけ  
が公開審査されます。

田中：審査結果で残ったら全部見  
ることが出来るんです。

●どこで見られるんですか？

今井：千代田放送会館で、決勝に  
残った作品を全員で見ます。自分  
たちが作ったのも見れるし、他の  
高校が作ったのも見れます。

田中：その中で1位と2位が全国  
大会に出るんですよ。

今井：大会はいくつかの会場に分  
かれてるんですけど、全国の作品  
が1日中上映しているんです。そ  
の中から3、4作品が決勝に残って、  
NHKホールで上映されます。こ  
の決勝戦は「全国大会に何作品か  
出てるか」という規定を満たした  
学校が見られるんです。

●なるほど。全国規模なんですね。

そのような大会に数多く出場する  
放送部は組織運営もしっかりされ  
ていると思います。

放送部の組織運営は先輩方の代  
から代々引き継いでいるんですか？

小島：部長と副部長がいるのは最  
初からだっただけですけど、ここ5  
年くらいで一気に人数が増えちゃ  
って、部長と副部長だけじゃとて  
も動かせなくなっちゃったんです。  
そこで新しくテレビチームやラジ  
オチームという役職を作りました。

●先生は役職を決めることに対  
しては何も言わないんですか？

今井：「こんな感じに決まりそう  
なんです」というのは先生に伝  
えます。それを聞いて、先生が最  
終決定をします。でも口を出すこ  
とはほとんどないですね。

●では先生は部活の中ではどう  
いう立ち位置なんですか？

田中：例えば脚本を作ったときに  
内容などについて提案をしてくれ  
ますね。

●なるほど。つまり、いい意味  
で放任してくれてるってことだね。

小島：そうですね。部員の意識が  
高い部活ですし、先生も「作品は  
上からこうしろと言われてできる  
ようなものではない」と言ってい  
るので。

部員自体が良い意味で我が強い  
んですよね。だから学年の中で意  
見をぶつけ合って、学年としてま  
とまって方向性を決めていますね。

田中：でも仲は本当にいいですよ。

小島：そうですね。あと以前までは  
部長と副部長と各チームくらいし  
か役割分担がなかったのですが、  
今年からはどんなに些細なことでも  
いいから部員全員に役職を決めて、  
各々がその役割をしっかりと果たす  
ようにして、少しでも部長とかチ  
ームの負担を減らしたりするよう  
にしていますね。

●なるほど。それを生徒主体で  
運営しているのは素晴らしいこと  
ですね。次は、放送部の活動を通  
して苦労した事などを教えてくだ  
さい。

小島：やっぱり作品作りは苦労し  
ますね。

田中：私は締め切り前の作業です  
かね。特に脚本と編集の締め切りが  
辛いですね。



左側：小島さん 右側：安川さん



# 放送部

## 座談会



# SPOT



近年、全国大会の出場が目覚ましい鶴ヶ丘放送部。その成長にはどのような秘密があるのか。今の現役生はどのようなことを考えて部活動や学校生活に取り組んでいるのか。今回は鶴ヶ丘放送部にスポットを当てて座談会形式で話を伺った。

● **よろしくお願いします。**  
全員：よろしく申し上げます。

● **まずは自己紹介をお願いします。**  
小島：放送部の部長をやっています。2年の小島大介です。

● **最近部活でPCを自作したので、自家用に自作してみたいと思っています。**

安川：2年安川健幸です。僕は昔の戯曲を読んだり、自分の好きなアーティストのCDを買いに行ったりとかします。

今井：放送部の副部長をやっています。2年の今井まほろです。映像を編集したりするのが好きです。

田中：2年田中莉奈です。音声関係の作品とか、機材のチーフであるラジオチーフをやっています。部活の自作PCは小島君と私の2人で作りました。

● **ありがとうございました。**  
では、はじめに今の放送部について教えてください。

小島：私たち放送部ではテレビドラマやラジオドラマを作ったりとメディア関係の活動をする事が多いんです。

● **どのような流れで進めるんですか？**

今井：まず企画をあげて、脚本を書きます。その脚本の人が監督になり、脚本に出たい人でオーディションをします。監督がキャストを決めて、そのキャストをもとにテレビドラマやラジオドラマを作ります。

● **脚本は誰でも書けるものなんですか？**

小島：大会の時は次の大会で自分で作品を作りたいっていう人たちが一旦脚本を提出します。それを部のみんなが全部読んで、投票をします。選ばれた作品の脚本を書いた人が監督になってその大会に向けて始めるんです。

安川：テレビとラジオのほかに、大会では朗読、アナウンスがあります。朗読は秋と春に大会があります。秋大会は自分が今まで読んで好きな本を、春大会は大会側の方から課題の本を2分以内で読める限りを読みます。自分が読みやすいところや1番感動したところを読むんです。

アナウンスの方は、1分30秒で自分が伝えたいことを読みます。基本的には朗読と同じですが自分で原稿を作る所が違います。

● **テレビ部門はどんな感じなんですか？**

今井：テレビ部門はドラマとドキュメントに分かれていて、どちらも8分以内の映像作品を作ります。テレビドラマは脚本をみんなが集めて、その中で好きなドラマを作ります。内容も高校生らしい物語で高校生だけで作ります。ドキュメントは身近に感じたことを映像作品として伝えるものにします。

● **最近テレビドキュメントで取**

ている人が多いんですか。

小島：もともと放送部に入る時に、将来の夢がはっきり決まっている子も入れれば、仮入部の時に面白そうだから入ってみようっていう子も居ますね。

田中：うちの部活ってすごいアットホームなんですよ。

今井：だからソリが合えば、とても居心地がいいんですよ。ね。

小島：活動をしているうちにもっと自分がやりたいことが見つかって、辞めていく子はいますけど、苦になって辞めていくというのはいないですね。

田中：だから辞めた子も部のパーティーには必ず呼びますね。

●部のパーティーっていうのは？

今井：3送会（3年送別スポーツ大会）や毎年の行事毎で集まるんです。

小島：2学期の終業式には釜飯パーティーをやります。食堂を借りて、その日に釜飯を先輩の分を後輩がご馳走して、最後に経験豊富な先輩から一言貰うんですよ。先輩方が培って来たものを代々後輩が受け継いで来て、それが今の技術とか成績に繋がっているんです。やっぱり自分たちだけでは今の成績

は出せていないと思うんですね。

●それをまた新しく入ってくる1年生に教えていくんですね。

小島：そうですね。だから1年生の入りたての時期っていうのが一番大変かも知れないですね。なにも知らない状態から一気にたくさんの方を教えられるので。

今井：そこから自分の好きなこととかを磨いていったり。

田中：だから今の先輩もだんだん色々興味のある分野に手を出してみても、声優とか、映像編集とかいろいろある仕事をする中で自分にはこれがあつてなるってものを探すんです。やっぱり編集しかやらない人もいれば、脚本・監督しかやらない人も居て、私は全部やっただんですが、やっぱり演技は向いてないなと思っていました。

小島：うちの放送部って、今まで挙げた活動以外にもいろいろ取り組んでいるんです。例えばこの前は日芸コンクールの表彰式で司会を務めさせていただきました。それに、国立劇場に演劇や郷土芸能などの優秀な学校を集めて公演があるのですがその司会をやったんですよ。

●放送部って本当にいろんな活動やってるんですね。何をやってるの？と思ってましたが一言じゃ表せないですね。活動の幅が広がってどれ

も深い。

田中：そうですね。お昼の放送もやってないので何やってるの？ってよく聞かれて。

●今後は学校の生徒さんたちにも広く知ってもらえるようにしていくと。

小島：そうですね。やはり文化部だし、何やってるのかわからないから、暗いイメージを持たれてしまっているので、これからはそこを改善していきたいですね。

●そうですね。では、最後に皆さんにとっての放送部とは何ですか。

今井：私は、部活とは、自分の将来の夢に向かって切磋琢磨しながら力をつけさせてくれる所だと思います。

あと気の合う友達がたくさんいて気が安らぐ場所です。学校の中で一番好きなのは部室なんじゃないかな。

田中：人間関係でも技術面でも自分を成長させてくれる場所です。放送部は個性的な人が多いので自分の意見をしっかりと言わないといけないんですよ。でも本当に分かり合えると強い人間関係をつくれる部活だと思っています。

安川：自己研鑽の場だと思います。それは部活での作品作りではチームワークはもちろん、一人一人が

作品に対して熱意を持つこと、また、自分が表現したいものを表現するための技術が必要になるからです。自分は何に興味があつて何をしたいのか？それをするためにはなにが足りないのか？それを見極めるためにも自分を見つめ直すことが必要になります。

小島：僕は今後の社会で必要なことを学べるという意味で部活は学校の延長線上で学ぶ場だと思っています。部員達が過ごしやすい環境を作るとい立場にいるので、色々勉強になります。

●これからも頑張ってください。ありがとうございます。

4人：ありがとうございます。



顧問を囲んで写る放送部の皆さん

小島：そうかな？自分は監督として作品を作るときは動き始めが一番辛いと思いますね。動き始めがまだよく定まってるから監督として指導もしなきゃいけないけど、自分自身もカメラワークや監督の作業がまだよく分からないから把握しなきゃいけないし、やることが多くて大変なんです。

●それは大変ですね。逆に役者も監督も自分の役割がわかっただけで大丈夫ってことですか。

小島：そうですね。軌道に乗るまでがとにかく一番大変です。軌道に乗ってしまえば、忙しいんですけどやることは分かっているんでなんとかあります。

●何かその事についてなどのエピソードはありますか。

今井：春大会の締め切り3日前で、まだ終わってないから編集しなきゃいけないってなったときに、20時まで残れる延長練習の時間をフルに使って、約10時間以上部屋の途中で缶詰めになって作業したりですかね。あと作品のほかにもどのシーンでどの効果音を使ったとかの企画書を大会の度に提出しなきゃいけないので、それも大変でした。

●企画書も作らなきゃいけないんですか？

小島：そうなんです。企画書を疎



左側：今井さん 右側：田中さん

かにしてちゃんと書かずには提出すると、このシーンで使われている効果音が企画書に書いていなかったため失格っていうことも過去にあったみたいなので、大変なんです。

●かなり厳しく見られるんですね。では、放送部としての目標など聞いてみたいと思います。

小島：大会の全7部門（ラジオドラマ／ドキュメント、テレビドラマ／ドキュメント、アナウンス、朗読、研究発表）に出して、全部1位で東京通過したいっていうのが、一番の目標ですね。

今井：東京を通過すれば全国大会に行けるので今の1年生を全国に連れていってあげたいんですよね。

田中：うん、全国のレベルを見せて

あげたいんです、東京って強くないんで（笑）

●えっ、弱いんですか（笑）

小島：はい、自分が前に映画甲子園に出させていたときに、映画甲子園って全国からエントリーしてくるんですけど、やっぱり特選には東京って選ばれてないんですよね。

田中：秋の大会でも地元ネタとかが挙げられやすくなってドキュメント色が強くなるんですよね。

今井：1位で話してる人は土佐弁で話してる人じゃなかったっけ？

小島：そうだったね。全国でも1位を取ったら顧問の先生が本場のディズニースタンドに連れて行ってくれるって（笑）

●じゃあぜひ頑張らないといけませんね（笑）

●話を覚えて、皆さんの将来の夢について聞きたいと思います。

今井：中学の時からアニメ制作に興味があるので、アニメの制作会社に入りたいと思っています。音声編集とか色の調整とかそういう最終調整や、演出なんかをやりた

田中：私は逆にスタジオとかで働きたいと思っています。歌や朗読

などを録音するエンジニアみたいな仕事をやりたいと思っています。

●それは放送部の活動を通して思ったことなんですか。

田中：そうですね。とても細かい機器がたくさんあったのでそういうのを触れているうちに、そこで興味をもちました。

●安川君はいかがですか？

安川：僕は放送部に入る前から演技をやりたいと思っていました。自分に一番身近だったのがテレビで流れているアニメでした。それで演技や芝居が出来て放送に繋がる声優という形で演技を続けていきたいなと。

今井：つまり、安川が声優でそれを田中が録音して、私が編集するっていう（笑）

●一連の流れみたいな感じですね（笑）

小島：僕は以前、放送部の知識についてのクイズを副部長と一緒に作成したことがあったんです。それを新藤先生（放送部の顧問の先生）が見ていて、先生になったらどうかって言われたんで、大学入って教職をとりつつ、養成所とかに通おうかと思っています。

●みなさん夢がはっきりしているんですね。やっぱり放送部にいる人たちってこういう志を持つ

# 同窓生のお店探訪

しゃぶしゃぶ&  
ステーキの店

## 八代井亭



池尻大橋駅前の大通り沿いを少し歩くと、地下にしゃぶしゃぶ&ステーキの店「八代井亭」はある。

店主は大橋隆治氏(55年卒業)。「高いお肉が美味しいのは当たり前。安くても美味しいお肉をお腹いっぱい食べて欲しい」と語る大橋氏は、なるほど、高校、大学時代がアメフト部というのも納得の身体つきである。

この店の看板メニューであるしゃぶしゃぶを注文した。お肉だけしかお皿に乗っていないのに何故かため息が出るほど色鮮やかで豪華に見える。「しゃぶしゃぶは薄い方が美味しい」とその身体つきからは想像も出来ない程優しい口調で話す。八代井亭のしゃぶしゃぶ用の牛肉はブランド肉ではないのに、生でも食べられるほどモノが良いそうだ。そのため、グツグツ沸く鍋にお肉をサ

ッと通せば食べられる。「来てくれ

た方には是非一度ウチの「ゴマだれで

食べて欲しい」という店主自慢の「ゴ

マだれで頂く。薄いはずのお肉なの

にとても食べ応えがある。けれど、

口いっぱい頬張っても柔らかかく、

すぐになくなってしまう。更に自

慢のゴマだれは、市販の甘つたらい

だけのモノとは違い、「ゴマの味とコ

クがしっかりと出ているのに後を引か

ない。不思議な感覚だ。

「僕の人生は肉と共にあった」実家

が元々精肉店で子どもの頃から美

味しいお肉を食べてきた大橋氏は

お肉そのものにも並々ならぬコダ

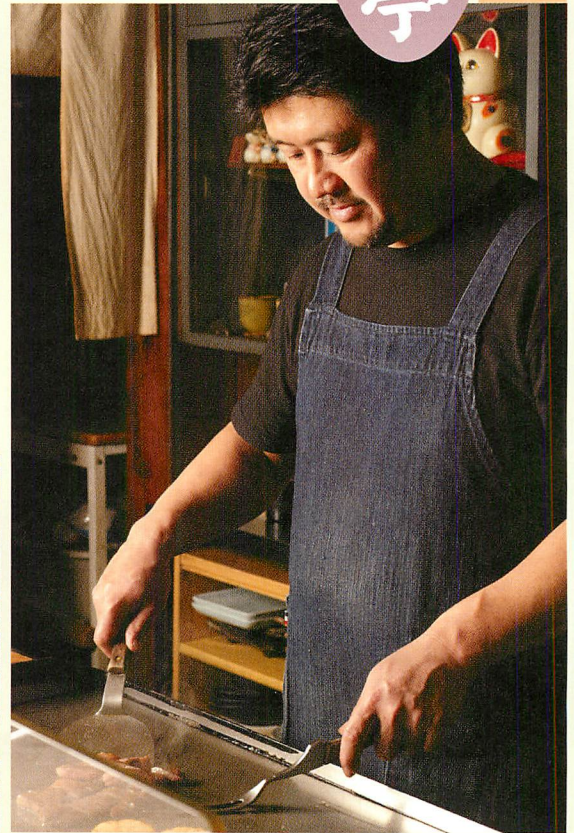
ワリを見せる。ブランド肉ばかりが

目立つ世の中だが、八代井亭に來れ

ばそんな事は関係ないということ

が分かる。是非一度皆さんも、この

不思議な感覚を体験しに足を運んでみては如何だろうか。



しゃぶしゃぶ&ステーキの店  
「八代井亭」

住所：東京都世田谷区池尻3-20-2

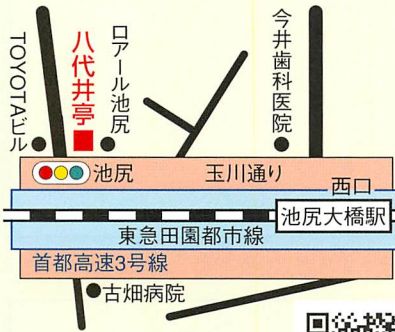
柳盛堂Ⅱ B1F

TEL：03-3411-2911

定休日：月曜

アクセス：東急田園都市線「池尻大橋」駅

西口より徒歩4分



# 2012鶴ヶ丘祭 開催のお知らせ

開催日: 2012年9月15日(土)・16日(日)

(開催時間はホームページでご案内します。)



今年も鶴ヶ丘祭に同窓会として出展予定です。  
来場者の方々に更に楽しんで頂けるようなサービス等をさせていただきますので、  
是非皆様お誘い合わせのうえお越し下さい。

## 開催内容

- 学校行事などのビデオ上映
- 卒業アルバムの閲覧
- お茶菓子等を御用意してお待ちしております。

今年は新規の試みとして、  
iPadを利用して過去の  
卒業アルバムの閲覧が  
出来るようにする予定です。  
お楽しみに!



## 同窓会では皆様の思い出の品を探しています。

鶴ヶ丘の制服、スクールバッグ、クラブバッジなど学生時代の  
思い出の品をお持ちでしたら、まずは同窓会までご連絡下さい。  
お借りした貴重な品は特集企画に使わせて頂きます。また、お  
品物は同窓会が責任をもってお預かりし、特別企画終了後は  
速やかにご返却致します。皆様のご連絡をお待ちしております。



- 住所: 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-26-12  
日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会事務局
- メールアドレス: [tsurugaoka@ntdosokai.org](mailto:tsurugaoka@ntdosokai.org)



東京都知事免許(9)第38022号  
東京都宅地建物取引業協会会員  
有限会社秀明商事

昭和34年卒業  
代表取締役  
取引主任者 **根岸 辰行**

東京都杉並区永福4-32-7 シュウメイハイツ101  
TEL03-3325-9684 FAX03-3325-9687

NDD  
社団法人 新地域研究機構

昭和46年卒業(3年A組)  
会長 **石川 昌三**

東京都千代田区神田錦町3-16 五十嵐ビル5階  
TEL03-3518-0105 FAX03-3518-0106  
ishikawa@nddj.org

## 月島デンタルクリニック

昭和53年卒業  
院長 **糸川 良輔**

診療所◎東京都中央区月島2-15-16 清月ビル2階  
TEL03-3531-1165

## 山岸設計事務所

昭和53年卒業  
**山岸 祥一郎**

神奈川県横浜市中区山手町272-1-308  
TEL045-211-0161 FAX045-211-0162

日本大学法曹会所属  
高村法律事務所

昭和54年卒業(3年E組)  
弁護士 **高村 定憲**

"民事一般、倒産、クレジットサラ金、労働、不動産関係、親族相続、  
会社関係、刑事事件、各種法律相談"  
東京都杉並区荻窪4-32-3 AKオギクボビル5階501号室  
TEL03-3398-8880 FAX03-3398-8890

昭和55年卒業(3年H組)  
**阿部 栄介**

## 株式会社 飯田

昭和55年卒業(3年F組)  
代表取締役 **飯田 哲司**

本社◎東京都千代田区神田錦町3-16 五十嵐ビル5階  
新宿オフィス◎新宿区歌舞伎町2-40-5(歌舞伎町パーキング内)  
TEL03-3518-6433 FAX03-3518-8299  
jinhai@live.jp

しゃぶしゃぶ & ステーキ  
八代井亭 (やよいてい)

昭和55年卒業(3年D組)  
代表 **大橋 隆治**

東京都世田谷区池尻3-20-2 柳盛堂II B1F  
TEL03-3411-2911  
http://www.yayoitei.com

昭和55年卒業(3年G組)  
**矢嶋 宏行**

三井住友海上火災保険株式会社 三井住友海上きらめき生命  
ソニー生命保険株式会社

## 株式会社三光リンクホールディングス

昭和58年卒業  
代表取締役 **小市 誠**

東京都渋谷区代々木2-23-1 1166号  
TEL03-5351-3500 FAX03-5351-3501

※卒業年順

日本大学校友会  
日本大學櫻門三崎倶楽部

櫻門  
  
三崎倶楽部

会長 中上 亮三

幹事長 須磨 正則

阿部 栄介

安井 誠



*experience*

Hyatt. You're More Than Welcome.

ハイアット リージェンシー 東京  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 2-7-2  
TEL.03-3348-1234  
[www.hyattregencytokyo.com](http://www.hyattregencytokyo.com)



HYATT name, design and related marks are trademarks of Hyatt International Corporation.  
©2012 Hyatt International Corporation. All rights reserved.

～お客様お一人おひとりのニーズとウォンツに合わせたサービスの提供へ～  
「食」から始まる「総合サービス」  
「安心・安全」をもとに人と社会の健康をサポート



はぐくむ、大切なことのすべて

**SHIDAX**

東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビレッジ TEL.03-5784-8881(代表) <http://www.shidax.co.jp>

※順不同

日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会報

22



## 校歌

※昭和46年に制定

一、果てしなき 碧き大空  
羽ばたくは 銀の鶴

青春の理想仰ぎて  
高らかに 天翔りゆく  
あゝわれら 日本大学

鶴ヶ丘 鶴ヶ丘

二、湧き出づる 泉かゝよい

若桜 ゆたかに匂う  
紅ぞ われらが生命  
いざともに 育みゆかん

あゝわれら 日本大学

鶴ヶ丘 鶴ヶ丘

三、見はるかす 芙蓉の高嶺

そり立つ 白壁の母校  
諸木々の みどり葉さやに  
むつみあい 永遠に栄えん

あゝわれら 日本大学

鶴ヶ丘 鶴ヶ丘

## 編集後記

中村 泰輔 (編集長)

前号、今号とIZUMIは大きな成長を遂げました。次号以降は紙冊子を中心にしながらもウェブやタブレット端末と連携した企画などを皆さんに配信していければと考えております。

今後のIZUMIにご期待下さい。

上崎 貴仁

リニューアル第2号が無事発行できました。私は前回と同様に、企画、表紙イメージ、紙面ラフ、スチル撮影など、主にビジュアル面を担当しました。母校の動向や同窓会活動にご関心頂くきっかけとなれば良いなと思えます。ご協力いただいた全ての方に御礼申し上げます。

中村 実加

同窓会会報誌は幅広い年代の方に読んで頂く為、どの年代の方でも楽しんで頂けるように頑張りました。これからは皆さんの意見を反映させた会報誌を製作していきたいので、ご意見、ご感想をお待ちしています。

小野崎 大地

母校の会報誌の製作。この貴重な体験をさせて頂いた同窓会には心から感謝しています。そして同窓生の先輩や同窓会会長を始めとする役員の方々にはたくさんご迷惑おかけしました。これからもよろしくお願ひします。

佐々木 俊輔

今年度から微力ながらIZUMIの製作に関わらせていただきました。私は主に放送部へのインタビューを担当したのですが、何もかも未経験で不安ながらもとても楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

柴田 慎平

製作メンバーとしてチャンスを得たとき、この同窓会誌製作で、新たな出会いが数多くありました。私にとつて幾多の出会いのきっかけとなつたこの同窓会誌が、読んだ方々とつて鶴ヶ丘を考えるきっかけとなることを願ひます。

日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会

発行人：阿部 栄介  
編集：会報誌制作委員会

Mail:tsurugaoka@ntdosokai.org  
URL:http://ntdosokai.org/